

校長の話

校長 上村 哲也

今日は「新型コロナウイルス感染症」の三つの顔について話します。

身近なところでもコロナが流行しています。館林市でも感染した人が先週の木曜日に一人でした。

実はこのウイルスが怖いのは、「3つの“感染症”」という顔があることです。知らず知らずのうちに私たちも影響を受けています。

第一の感染症は「病気」、2番目の感染症は「不安」、そして、3番目が「差別」、これから順に3つの顔について話します。



第一の感染症、つまり、1つ目の顔は「病気そのもの」です。みなさんもよく知っていると思いますが、かぜのような症状が出たり肺炎になったりすることがあります。みなさんは今もマスクをしています。うがいや手洗いも心がけています。でも、今日、一瞬の誰かが病気にかかっても全く不思議ではありません。それは先生たちも私も同じです。これからは油断をせずお互いに気をつけていきましょう。

2つ目の顔は「不安と恐れ」です。この病気は分からないことが多く、私たちは強い不安や恐れを感じてしまいます。世の中には、理由のはっきりしない情報やいい加減な噂話もたくさん出回っています。自分の身を守るために「不安や恐れ」を感じることは悪いことではありませんが、そんな時は深呼吸して、落ち着いて行動していきましょう。

そして、3つ目の顔が「嫌悪・偏見・差別」です。嫌悪とは、相手のことを不快に思い、嫌う気持ちです。偏見とは、きちんとした理由のない、偏った考え方です。差別とは、ある人たちを区別して、自分たちより低く見る考え方です。こういった気持ちや考えは、人と人とのよい関係を壊してしまいます。

資料にあるのは「差別の木」です。枝にある言葉を読んでみましょう。特定の人や、地域、職業などを、まるで「ばい菌」扱いしているようです。この夏、みなさんはこんなニュースを聞いたことがあるでしょう。

- ・あなたはコロナを出した〇〇大学の生徒なんだよね。アルバイトやめれくない。
- ・東京の人は来ないでほしい。コロナをうつされたらたまないよ。
- ・あなたはクラスターがでた〇〇病院にお勤めですよ。うちのお店にはしばらく来ないでくださいね。

悲しいことですが、どれも実際に起こった出来事です。

では、3つ目の顔「偏見や差別」を防ぐにはどうしたらいいのでしょうか。

- ・小さな子どもがいる家庭も
- ・お年寄りのみなさんも
- ・今、コロナの治療を受けている人やその家族の人も
- ・コロナの疑いで自宅で待っている人も
- ・お医者さんや看護師さん、病院にお勤めの方も

日本中の誰もが、コロナの感染を食い止めるために頑張っています。もちろん第一小学校のみなさんやご家族のみなさんも、みんなで頑張っています。

近くにいる人も遠くにいる人にとっても、あいてはコロナウィルス感染症です。みんなで気持ちを一つにして、力を合わせてコロナに立ち向かっていきましょう。



1学期の終業式の時、「新型コロナウイルス感染症と正しく向き合い、新しい生活様式がしっかり身につくように努力し、楽しい夏休みを過ごしてください。」と、話しました。夏休み中、大きな事故やけが、病気をすることなく、健康で生活を送り、そして、今日、こうして元気に登校できたこと、すばらしいことであり、とてもうれしく思います。

さて、今日から2学期が始まりました。学校生活の中では、一つの大きな「節目」(ふしめ)となる日です。節目とは、物事における「区切りとなる大切なところ」を意味します。節目である今の新鮮な気持ちを大切に、これからの話を聞いてください。※



今年の2学期のスタートは、これまでと少し違うところがあります。1学期の通知表が、今日、担任の先生から渡されます。通知表には、みなさんの学習の様子、先生方がとらえたよさやもう少し頑張っしてほしい事などが記してあります。

まずは、今日、通知表をしっかりと見て、自分をよく知り、2学期のめあてづくりに役立ててほしいと思います。

今日から始まる2学期は、一番長い学期です。学校へ登校する日が84日あります。1学期は、とても急ぎ足での学習となりましたが、2学期は、自分の考えをしっかりと持ち、友だちと意見を交わし合い、学び合う学習が多くなります。その中で、「できた喜びやがんばった満足感」をたくさん味わってほしいと思います。

また、運動会、校外学習や修学旅行、書道展や美術展など、たくさんの大きな行事が予定されています。今から楽しみにしている人もたくさんいることでしょう。色々な活動を行う中で、友だちと協力したり譲り合ったりしながら「みんなで力を合わせる楽しさ」を十分に感じてほしいと思います。

そのためには、自分から進んで参加することが大切になります。思い切ってチャレンジし、もっている力をどんどん伸ばしてほしいと思います。わたしたち職員も、そのようなみなさんの成長を楽しみにしています。



※「節目」という言葉は、もともとは「材木の節があるところ」の意味ですが、「区切りとなる大切なところ」をたとえる言葉としても使われるようになりました。「節」は樹木が成長していく中で、元々あった枝が木の中に巻き込まれることで生まれます。